

【学習のねらい】

- ・漫画資料の「思いのすれちがい」の事例から、身の回りに起こる「すれちがい」の意味を考え合う。
- ・「思いのすれちがい」を解決するための話し合いをロールプレイで演じながら、自分の中にある思い込みに気づき、理解し合っていくための方法を考えることができる。

【準備するもの】 ワークシート「思いのすれちがい」（4コマ漫画）

【進め方】

（2から3人のグループになって自己紹介、必要に応じてアイスブレイキング）

- (1) 「漫画を読んで、感想を話し合ってみましょう。」
 - ・日常生活の中にも、このような事例はないか？その原因は何か？
- (2) 続きの話を考えロールプレイする。

「この続きはどうなるのか、園長先生の切り込みから、3者懇談の様子をグループで役割を決めて簡単に演技をしてみましょう。」

 - ・役割を決め、台詞をどんどん言い合う。
 - ・役割のない人は記録係をやり、台本をつくる。
 - ・できた台本を使って、演技をする。
- (3) 続きの演技を発表し合う。

「続きの演技を発表してもらいます。どんな話し合いになっていったか、お互いに見合いましょう。」
- (4) 心地よい関係づくりについて、グループで感想を話し合う。

【留意点】

- (1) 対立をさげたい気持ちから、単に誤解を謝罪し合う話し合いになっていくことがある。その場合、それで互いに納得はできたか、心の内を本音で考える場をもちたい。
- (2) 対立から関係の深まりに向かうような、園長の進行・対応の仕方を共通の課題として考え合いたい。
- (3) 日常のコミュニケーションの大切さを感じ取り、お互いの思いを安心して語り合える関係づくりをする良さを学び合いたい。

《参考》

「調停」とは…解決そのものには影響を与えない中立な第三者の助力を得て行われる対立解決

「仲裁」とは…解決を指揮する中立な第三者の助力を得て行われる対立解決

◇調停・仲裁の流れは…

- ① 情報を収集する（事実と感情について）
- ② 双方の「本心」（要求・欲望・心配事・恐れなど）を確認する

※本心は単刀直入に表現されないことも多いので、調停役は「それはなぜですか」「それは必要なことですか」「本心は満たされますか」などの問いかけをていねいにする。
- ③ 可能な解決方法を考え出し、一つ選ぶ
- ④ 行動計画を立てる

『対立から学ぼう』『対立は悪くない』（ERIC国際理解教育センター著）より

ロールプレイで考える

「思いのすれちがい」(ワークシート)

<保育士A先生からのカタカナの手紙>

登場人物のプロフィール

A先生：保育士

子ども：5歳 保育園の年中クラス（A先生が担任）に所属。

母親：フィリピン国籍で、日本国籍の夫と結婚。日常会話はすべて日本語でおこなっている。漢字とひらがなは読めないが、カタカナは読める。

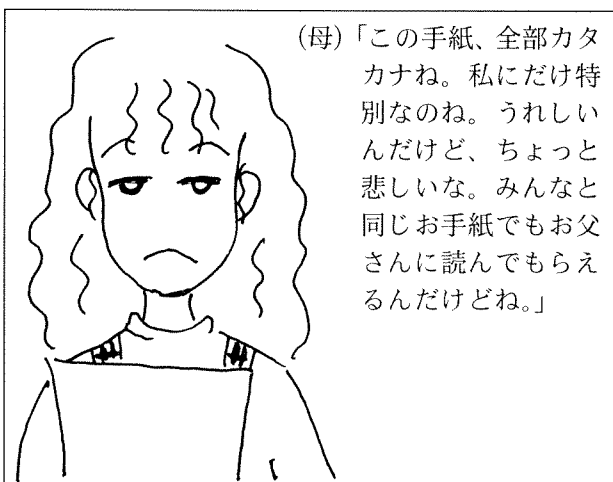
①



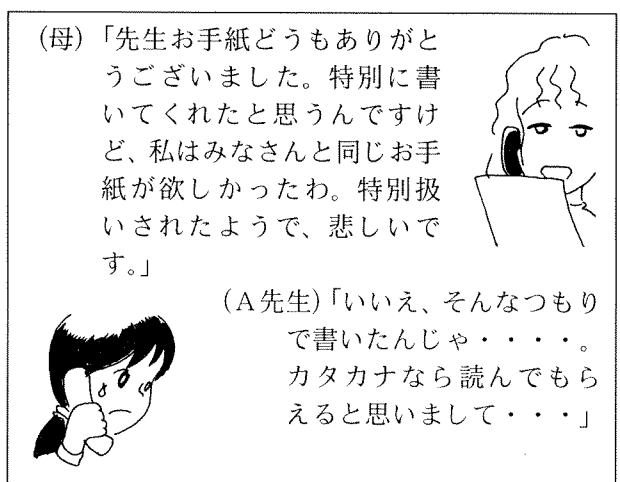
②



③



④



この後、A先生は、「思いのすれちがい」を感じ、園長先生に相談しました。

園長先生は、何よりも早く、互いの思いを聞きたいと考え、次の日、母親とA先生がいっしょに話し合う機会を持ちました。